

令和4年7月29日
恵那文化センター
13:30～

木づかいガイドライン作成資料について

1 木づかいに関連する根羽村の取り組み事例について

① 早生樹コウヨウザンの試験植栽について

- ・単木防護柵ハイトシェルターの獣害対策が効果を発揮せず、ほとんどすべての単木防護柵が下から持ち上げられ食害を受ける
- ・令和3年11月～12月にかけての被害であり、丁度植栽1年後の被害
- ・防護柵内に植栽木があることを学習したシカが仲間に伝えて集団で食害と推定
- ・今後の対応
 - ア 単木防護柵とカプサイシン(唐辛子溶液)の2通りの方法で獣害対策を実施
 - イ 単木防護柵については下から持ち上げられないスパイラルグリーンを採用
 - ウ カプサイシンはカブスガードプラスという商品を使用
 - エ カプサイシンの散布にはドローンによる精密塗布ができないか検討
 - オ 植栽木はコウヨウザンとスギの2種類
 - カ 全国森林組合連合会、長野県森連、農林中金、国土防災技術(株)、物林(株)が協力し根羽村森林組合が対応
 - キ 森林組合としては、単木防護柵資材運搬及びカプサイシンの塗布にドローンを活用できるように検討を開始する。

② 伐採現場から発生する末木枝条のチップ化販売について

- ・現地における末木枝条ゴミ問題の解決
- ・移動式破砕チップパー、トラクター、生チップ保管庫を導入
- ・生チップ買取
- ・契約 920t/年
- ・サーラ e パワー(株) (豊橋地区総合商社の発電事業) 木質バイオマス発電
木質燃料としての活用

③ ウッドショックにおける状況について

- ・製材品の受注増
- ・92年生ヒノキ林伐採対応 5.12ha 2,200 m³ (430 m³/ha) の伐採量
- ・現地のヒノキ素材単価 24,000～50,000 円/m³
- ・現在のスギ素材単価 4,500～20,000 円/m³
- ・一般的な傾向は住宅着工戸数の減少傾向
- ・合板事業の伸び(ツーバイフォーと合板でパネル化、パネルサイズを調整)
- ・住宅のパネル化(工場部品製作、現場組み立て)

- ・ロシア材の2×4材が入手できない→スギ材の需要増 直径18~30cm
- ・細目の材に需要増
- ・大径材は需要減 むしろ環境林として美林としての活用
- ・当組合は木造住宅の受注増 一般傾向と逆

④ 森林認証更新に向けて

- ・pdca自己評価簿 別紙のとおり
- ・取り組みの見える化による共通認識化と進捗管理
- ・今後の方向性の明確化

2 森林空間利用における取り組み傾向から

① 市民を森林に導く活動に取り組む南都留森林組合の取り組みと連携
ねらい

- ・両森林組合の強みを活かした流域連携
- ・南都留森林組合の森の学校、根羽村森林組合のプレイスメイキングによるコラボ
- ・森林に関する人材育成
- ・南都留森林組合経由でカヌー製作技術の導入

南都留森林組合の取り組み

- ・林業の技術・技能を伝える森の学校による森林ファンづくり
- ・森と健康とチームビルディングを意図した森林づくりワーク研修をスタート
- ・根羽村森林組合からわっぱづくりの技術・技能を伝授、製作可能体制構築
- ・医療関係者との連携
- ・精油づくりによるアロマオイル製品化及び憩いの場の形成
- ・森林フィールドの開拓
- ・木のアイテムによるプレイスメイキングの連携
- ・サウナ・アロマオイル・わっぱづくり等女性を森林に導くプログラム化
- ・ツリークライミング・ウッドデッキ・ガゼボの組み合わせによる憩いの場
- ・ツリークライミング利用の樹木(ブナ・シデ・サクラ・ミズナラ)との対話
- ・森の幼稚園・山保育等保育園児に対する自然との出会いの場の提供
- ・北欧文化ヒュッゲ・sisuと森林空間利用の接点
- ・ずっと一いたくなる森林、何度も行きたくなる森林づくり

② 技能職員がリードする森林空間利用

- ・マウンテンバイクコースづくり
- ・山の広葉樹を活かしたカラトリー製作
- ・村民の森林を借りた森林空間づくり(川辺ウッドサウナ・川辺ウッドデッキ等)
- ・牧場におけるウッドデッキや木製歩道、ジップライン設置による身近な森林づくり
- ・アクティブな活動に相応しい低密度な高木林の育成 大径木の新たな利用価値

③ 技能職員の心意気(技能職員安全パトロールや日常の会話の中から)

- ・かっこよく クリエイティブで 希望を持って輝いていること
- ・自ら輝いて人を惹きつけること
- ・自分の夢や目標を掲げ
利他的で
自分にしかできないことを
怖れることなくチャレンジする
- ・不確定要素の大きい世界の中で、いかに多様性を確保して様々なトライを行えるか
- ・メンバーによる多様な試行錯誤を惜しまない
- ・個性を発揮してチャンスを活かす
- ・学歴ではなくて、個人がいかに個性的で優れた特徴を持っているか
- ・ビジョンを持つための対話を行い、横のつながりを創出できる人がリーダー

(参考)

幸せの4つの因子

1 やってみよう因子 自己実現と成長の因子

夢や目標を持ち、それを実現させるための学習、成長意欲が高いこと、強みがあること
人生が変化、学習、成長に満ちていること、自己実現できていること

2 ありがとう因子 つながりと感謝

他者を喜ばせたり親切などの利他性や愛されていること、支援したりしていること、家族や友人たちなど人とのつながりや感謝を感じる

3 なんとかなる因子 前向きと楽観

物事に対して常に楽観的であること、自己肯定感が高く、気持ちの切り替えが早いこと

4 ありのままに因子 独立と自分らしさ

人の目を気にせず、周り与他人とを比べず、自分らしく、あるがままでいること

Pプラン		D 取組内容	C 自己評価・課題	A 次期アクション
プラン	項目			
1. 地域の環境保全、地域の安全・安心に資する	その他	①チェーンソーの使用にあたり生分解性オイルを使用 ①林齢平準化への対応 小杉地区、檜原地区において、村有林、区有林、個人有林を皆伐し、スギ、ヒノキを植栽 ②林地台帳について全森林所有者について完成 ③村有林、個人有林について造林補助事業を活用した森林整備、木材利用の推進 ④浅間神社に普通母樹林が存在しており、実生から育成していく地元優良材育成の検討	①根羽村森林組合で使用するオイルは全て生分解性オイルとして徹底できた ①今後、毎年一定面積の皆伐再造林を実施することで、林齢の平準化を図る。植栽については、今後被害対策が課題であり、単木防護柵においても植栽木の被害の被害があり、早急な対策が必要 ②全森林所有者への林地台帳が完成したことで、個々の森林所有者への森林情報提供が可能となった ③造林補助事業による計画的継続的な森林整備と木材活用ができた。今後、造林補助事業に頼らない皆伐にシフトしている ④地元の精英樹からの森林づくりの視点ができた	①引き続き生分解オイルの使用を継続 ①今後、毎年皆伐を進めることで、林齢の平準化を図る。被害対策については、単木防護柵においても被害が発生していることから、カブサイシンの塗布等、新たな被害対策を確立させる ②森林所有者に対して林地台帳の配布を行い、計画的な森林整備と活用を図る ③森林資源が充実してきているため、皆伐による森林資源の活用を図る ④地元の精英樹を活用した形質優良木の実生による植栽を目指し検討を進める
	2. 模範的森林管理により林業再生・地域振興に資する	その他	①フォレストガーデン構想 根羽村観光協会が中心になって、ハナモモ、アジサイの植栽を行い、ネバーランド周辺で景観の山づくりに着手 ②矢作川管内の4森林組合が連携して、技能職員を中心とした矢作川水源の山づくりガイドブック策定会議発足 ③被害対策による林福連携 根羽村社会福祉協議会と連携して、単木防護柵を製作	①根羽村観光協会が社団法人化したことにより、財源の確保が容易になり、今後も景観の山づくりが継続されることは評価される ②矢作川流域内の4森林組合の技能職員が山づくりの技能について、人材育成の観点から策定会議を発足できたことは評価される ③被害対策の一環として森林組合が福祉協議会と連携し、単木防護柵の組み立てができ、かつ労働収入が得られたことは評価される
3. 地域資源の循環利用に資する	SGEC 認証材の生産と利活用の推進	①根羽スギ・根羽ヒノキを活用した森林認証材による建築部材の提供 年間約1,300㎡の建築部材を工務店に供給 ②他業種との連携 徳島県上勝町(株)いろいろどりと連携した「木の布」プロジェクトを始動し、村から森林組合に「木の布」商品企画開発委託	①森林認証材として建築部材を工務店に提供できた。 住宅換算すると年間65棟程度の生産量となる ②短いサイクルで販売していく「木の布」事業と、長いサイクルで販売していく、モバイル的な活動拠点として活用する板倉構法の家との組み合わせによる販売戦略の検討は評価される	①現在の工務店を事業パートナーとして、今後も継続的な販路として確保する。また、伝統構法となる板倉構法の家づくりを名古屋市の先進事例に習い、活動拠点施設、学童施設として活用できるような商品の検討をしていく ②事業申請を行う中で、家と木の布の組み合わせ販売を確立したい



<p>3. 地域資源の循環利用に資する</p>	<p>SOCEC 認証材の生産と利活用</p>	<p>③木材のカスケード利用のため、移动式破碎チップパーを導入し、森林組合にチップ保管庫を設置した ④消費者価値にとって何が良い製品なのか → 外向きの時間と労力の重要性 木のアイテムの試作 → モニター → フィードバック → 製品化</p>	<p>③木質バイオマス燃料の供給システムが確立されつつあることは評価される ④どこでもウッドサウナ等、魅力的な商品を開発し、イベント展示を通してモニターから意見を取り入れながら、オーダーメイドを進める方式が確立されたことは評価される。イベント収入スタイルが確立されたのは、魅力的な木のアイテム開発による。</p>	<p>③C・D材をチップ化して木質バイオマス発電燃料として売却する見込み。愛知県豊橋市の発電会社と木質バイオマス燃料の供給契約 ④イベント収入を前提とした森林認証材の木のアイテム製品紹介を継続していく。コアなファンの獲得とその人脈を活用した質の高い製品の販売を進める。</p>
<p>4. 教育・環境学習・憩いの場として、地域住民の文化・保健休養に資する</p>	<p>地域フィールドとしての提供</p>	<p>①長野県の里山整備利用地域認定 地域の住民が主体となった里山整備利用 地域住民が里山を変える ア) 高橋地区 山地酪農対象地を中心に人と森との共生林、自然体験、環境学習、木育、展望歩道、大型BCテント、村民参加のブレイスメイキング イ) 取手地区 フォレストガーデン構想、彩の山、オーダーメイドの山づくり ウ) 月瀬地区 月瀬の大杉周辺の森林整備 ②技能職員によるマウンテンバイクコースの設置 ③技能職員によるウッドサウナ等の憩いの場の創設 ④根羽 ROCI の散策道の設置・テーマ別林内ウッドデッキの設置</p>	<p>①地域住民の意欲によって地域の森林を活用し、景観形成に取り組む活動は評価できる。また、同時に、新たな森林活用プログラムを創造していくことも評価できる。県の財源確保は課題である。 ②技能職員自ら地域懇談会を開催し、県を飛び越えた仲間を参集し、ルールづくりやコースづくりに結びついたことは評価される。 ③ウッドサウナがあることにより、そこに行きたくなくなる森、ずっといたくなくなる森として里山が活用できていることは評価できる。 ④根羽学園の生徒と一緒に林内の岩壁の上や、サクラの木の下にウッドデッキを作成したことは、生徒たちのひとつの原体験となった。このことは、自分達らで地域を魅力的にできる原体験でもあり評価される。</p>	<p>①すべて長野県の森林税制度を活用した取り組みであり、今後もしようとした財源の確保を期待したい。 ②マウンテンバイクコースは、山を良く知っている技能職員こそが、コース設定できる。今後はトレイルビルダーの資格も取得し、新たなコースづくりも展開する見込み。 ③このウッドサウナを目的に訪れる顧客は多い。木のアイテムがあるブレイスメイキングによって地域の魅力を引き出せるので、今後もしようとした魅力スポットを開拓する。 ④根羽学園の生徒と共に、魅力的な地域のブレイスメイキングに参加させていく。</p>
<p>5</p>	<p>環境教育フィールドとしての提供</p>	<p>①安城市わくわくネイチャークラスクール実施 2回/年 8月(コロナ対策で当面延期) ②明治用水土地改良区の取り組み 安城市「水の環境学習館」で木育活動 森林環境学習館の設置構想 ③安城市との連携強化 令和4年3月31日で分収契約満期を迎える「水源の森」の今後の活用方法の検討 ④信州大学地域連携協定に基づくフィールド提供 山地酪農、森林水文学、森林・自然環境教育等の研究フィールドとして活用</p>	<p>①子どもから親への口コミで、その結果、親同士で子ども達の自然体験の楽しさが伝わっていることが、大変評価できる。年2回の開催が年4回への要望となり、自然との触れ合いや体験希望の多さに期待が持てる。 ②定番の「水の環境学習館」での木育活動は、非常に好評であり、木の魅力や楽しさを伝える意味でとても効果がある。 ③水源の森は、満期に伴う伐採は行わず、森林環境学習林とした意義は大きい。 ④信大農学部と連携して、人と森との共生を意図した里山を対象に、山地酪農やアクティブな森林利用の事例として評価できる。信大農学部の様々な研究成果によるエビデンスも多様な森林づくりのデータとして評価される</p>	<p>①安城市在住のファミリーからの自然体験の要望が高く、これを上手に取り入れた原体験プログラムを創造していく。 ②今後も継続して、明治用水と連携した木育活動を継続していく。 ③水源の森は、契約に伴う伐採は行わず、森林環境学習を目的とした用途に活用する見込みである ④人と森との共生林等、信大農学部のデータ等を活用して今後の多様な里山の活用を展開していく。</p>

<p>5. 各構成員に対する指導と支援</p>	<p>事務向の指導と支援</p>	<p>①村有林：森林認証に係る森林管理、計画的な主伐と間伐の実施 ②森林組合：組合員からの受託による計画的な森林整備 ③林業公社：計画的な間伐及び獣害対策 ④明治用水：計画的な間伐の実施と市民に対する森林環境教育の実践 ⑤安城市：「水源の森」の契約満期に伴う今後の活用方針の検討 ⑥長野県：矢作川の水源地に位置する森林の「公的森林管理」としての提案</p>	<p>①造林事業を財源としながら、計画的な森林整備、木材活用、雇用の場の創造等、地場産業の育成に結びついている ②村有林、個人有林等の森林整備、木材活用が推進され、森林収入に結びついている ③健全な森林資源の育成、森林の公益的機能の発揮 ④充実した森林資源について共通認識をもって森林づくりに取り組んでいる ⑤今後の活用方法について、安城市や環境団体と打ち合わせを重ね、その方向性について指導している。 ⑥現状確認のみ</p>	<p>①施業箇所について、森林経営計画に登載し計画的な間伐材搬出や皆伐による森林資源活用に結びつくよう指導する ②森林所有者にできるだけ還元されるような森林施業プラン提案を、森林所有者に提示してもらおうよう指導する ③森林資源の獣害対策について、現地確認を共にしながら指導する ④森林資源の最終分密度について、現地確認を共に 行いながら指導する ⑤今後の森林活用について、検討に参加していく ⑥令和5年の分収契約満期に伴う村との協議により、今後の方針について検討、アドバイスを行う</p>
<p>6. 課題・今後の方向性</p>	<p>根羽村及び根羽村森林組合における課題・今後の方向性</p>	<p>①技能職員の職場環境改善・定着率向上 ②木材利用促進法等、木材利用が推進される制度設計 ③組合経営に係る経営者の育成及び刷新 真の経営者とは ④弱小森林組合が生き残れる魅力的な雇用体系 技能職員の公務員を凌ぐ給与体系 ⑤長野庁・県職員等制度設計担当官に対する森林組合等現場研修 ⑥末木枝桑木質バイオマス燃料、木の糸、ヒートウッド、フォレストガーデン、早成樹導入、里山ガーデン等、新たな森林産業にチャレンジ ⑦上下流域と連携した森林環境譲与税のチャレンジ的な活用 ⑧ライフスタイルとしての森林の在り方を伝える場の提供・創造 ⑨どこでもシリーズの認知度向上 ⑩愛知教育大学との連携による木音活動拠点の確立 ⑪獣害対策の確立 ⑫矢作川水源地の山づくりガイドブック作成等、流域内 ⑬4森林組合等（根羽村、豊田市、岡崎市、恵南の各4組合の技能職員と森林学識経験者）による山づくりの検討 ⑭南都留森林組合との業務連携により森林認証材の販売拡大及び森林づくりワークショップの検討を行う</p>	<p>①造林事業を財源としながら、計画的な森林整備、木材活用、雇用の場の創造等、地場産業の育成に結びついている ②村有林、個人有林等の森林整備、木材活用が推進され、森林収入に結びついている ③健全な森林資源の育成、森林の公益的機能の発揮 ④充実した森林資源について共通認識をもって森林づくりに取り組んでいる ⑤今後の活用方法について、安城市や環境団体と打ち合わせを重ね、その方向性について指導している。 ⑥現状確認のみ</p>	

7. 森林組合の役割	根羽村森林組合の役割	<p>①地域一体的な適切な森林管理の担い手及び守り手 ②それに伴う森林の公益的機能の発揮 ③地域の森林資源情報等の把握による森林所有者に対する適切なサービス・情報提供 ④森林産業の確立による地域経済の担い手 ⑤居心地の良い森林空間づくりを基本とした国民に対する森林サービス産業の確立 ⑥森林に関わってライフスタイルを確立しようとするドリーマー、チャレンジャー、ブレイヤー、マネージャーの真の受け皿 ⑦信頼される木材製品の安定的な供給</p>		
------------	------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

7



・ 写真名

コウヨウザン植栽地被害状況



・ 写真名

コウヨウザン植栽地被害状況



・ 写真名

コウヨウザン植栽地被害状況



・写真名

破砕機トラクター



・写真名

破砕機



・写真名

生産されたチップ



・ 写真名

村営住宅 外観



・ 写真名

村営住宅 内部



・ 写真名

村営住宅 内部



写真名

村営住宅 外観



写真名

村営住宅 内部



写真名

村営住宅 内部

森を使って

森を守る

ものづくり

「次世代に美しい森を残したい」そんな思いから、森を使って森を守るものづくりをはじめました。私たちのテーマは森から恩恵を得るだけでなく「森に還す」です。今回、根羽村の杉の木からタオルを作りました。森林環境を守ることとは「木」を上手に使うことでもあります。この取組みを多くの方々に共有させていただき、売上は森を守るため森に還します。

12



1.



根羽村の間伐材を使用
細かなチップ状に粉砕

3.



オリジナル生地を
機能に応じて織り上げる

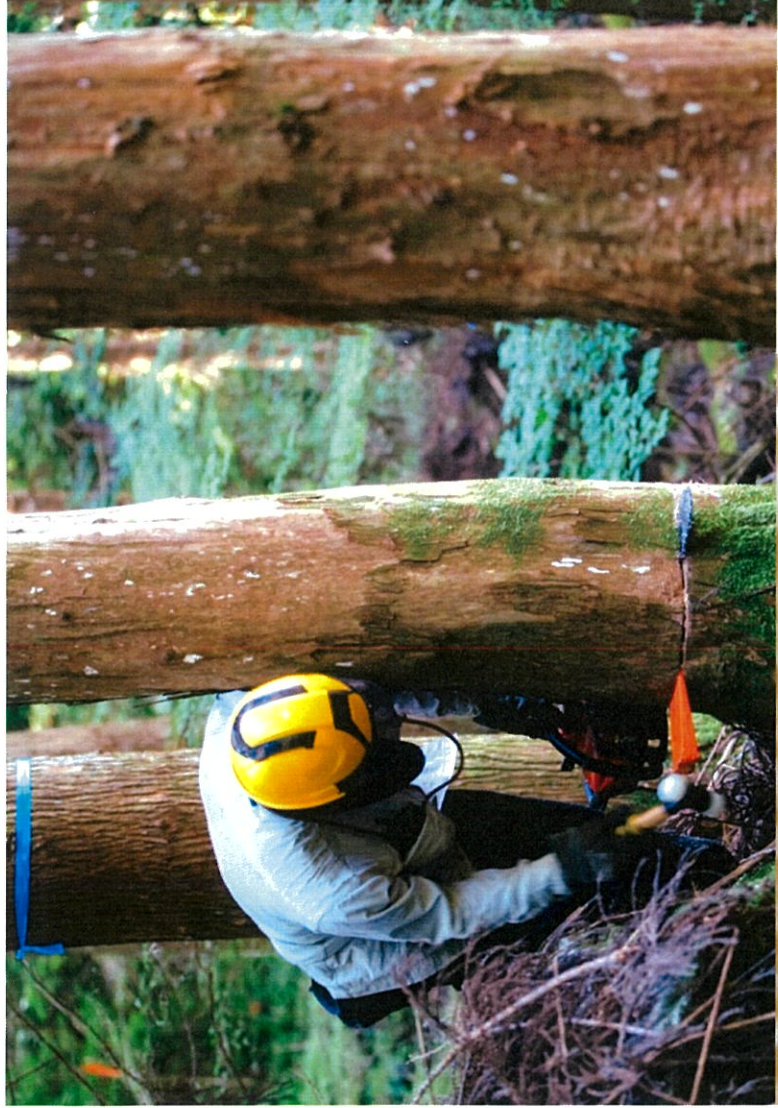
4.



KINOF
NEBA FABRIC

木材から繊維を抽出し、
麻と合わせた木糸を紡績

タグや端部を手作業で縫製し
KINOFオリジナル生地の完成



木の糸を用いて織られた布は、吸水性に富み、湿度のある場所でも乾きやすい特徴をもっています。はじめは少し堅めの手ざわりですが、空気を含みゆったり織り込んであるため、洗うときゆつと縮み、立体感が生まれ、使っていくうちに軽くてふんわり使い心地のよい布に。

木の糸は繊維が短く繊細なため、麻を加えて強度を補い横糸として使用しています。繊維の毛羽立ちは少なく、対象物に優しい肌ざわり。赤ちゃんや敏感肌の方にもお勧めです。

この取組みに協力していただいた方々をご紹介します。
徳島県上勝町 株式会社いろどり
大阪府阪南市 株式会社和紙の布
KINOF®は株式会社いろどりの登録商標です。

R4年度 農山漁村振興交付金 山村活性化対策

○ 山村活性化対策事業 商談会開催事業

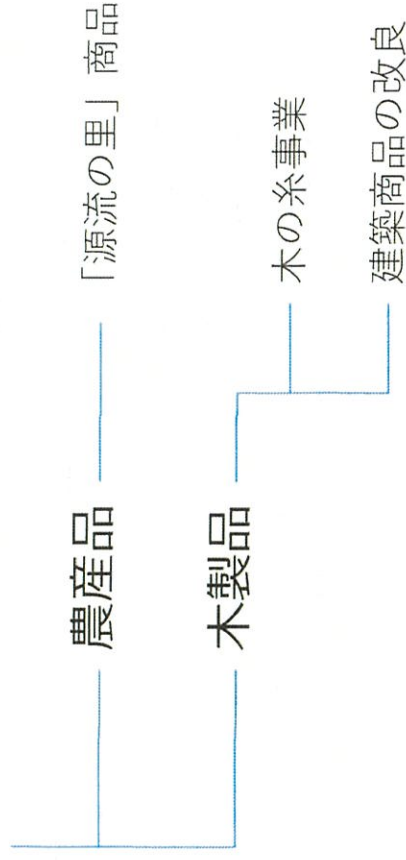
以下、農山漁村振興交付金で進めたい項目

地域資源を活用した新商品の開発及び既存商品の改良を行う



根羽村、根羽村森林組合、ネバーランド(株)、ねばね

脱炭素化社会に向けた商品開発と既存商品の改良

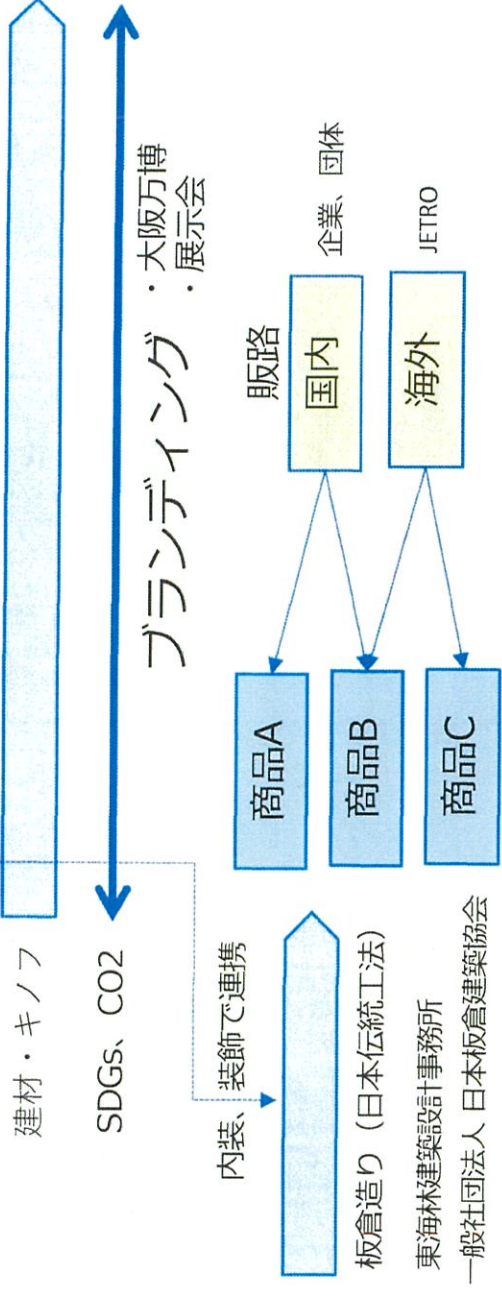
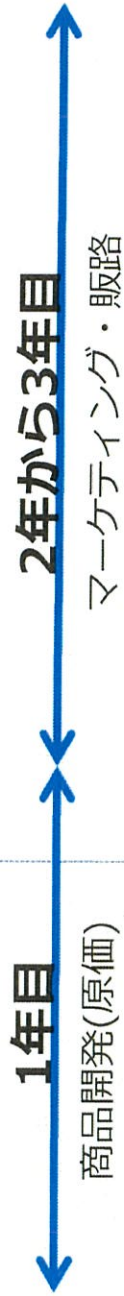
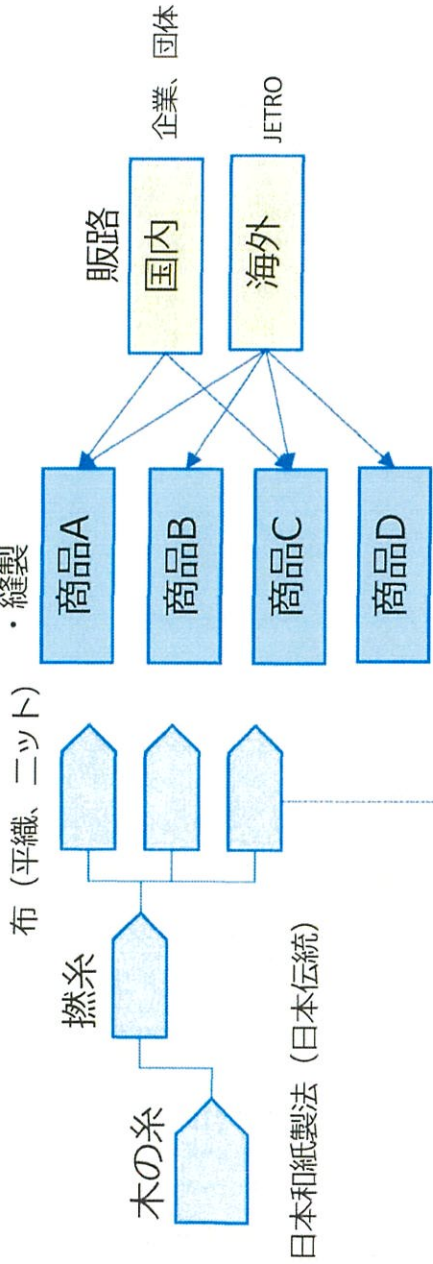




指導：MSI 稲垣
 連携：木の糸コンソーシアム

(株)小林ニット
 ・デザイン
 ・縫製

(株)高島屋
 伊藤忠ファッションシステム



根羽スギ
 根羽ヒノキ

木の糸

建材

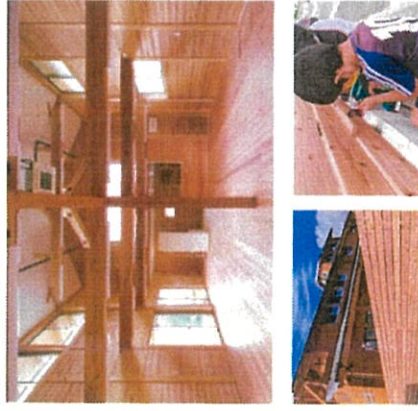
商品コンセプト 概要



日本の地球に優しい生活スタイル JAPAN SDGs

日本古来から伝わるものづくりを基盤とし、持続可能な生活スタイルを提供する

板倉造り (日本伝統工法)



板倉は、日本古来の神社や穀物倉庫を造ってきた優れた木造建築技術です。板倉の家はそれを応用したものです。材料は地元のスギを使います。スギは日本原産の木、そして日本に豊富な資源です。これを大切に使うことで、資源を絶やさず、いつまでも暮らすことができます。石油や原発に依存することなく、森林資源を生かす暮らし方は、日本人の優れた知恵です。杉を生かす暮らしの提案、未来に生きる杉の家です。

根羽スギ

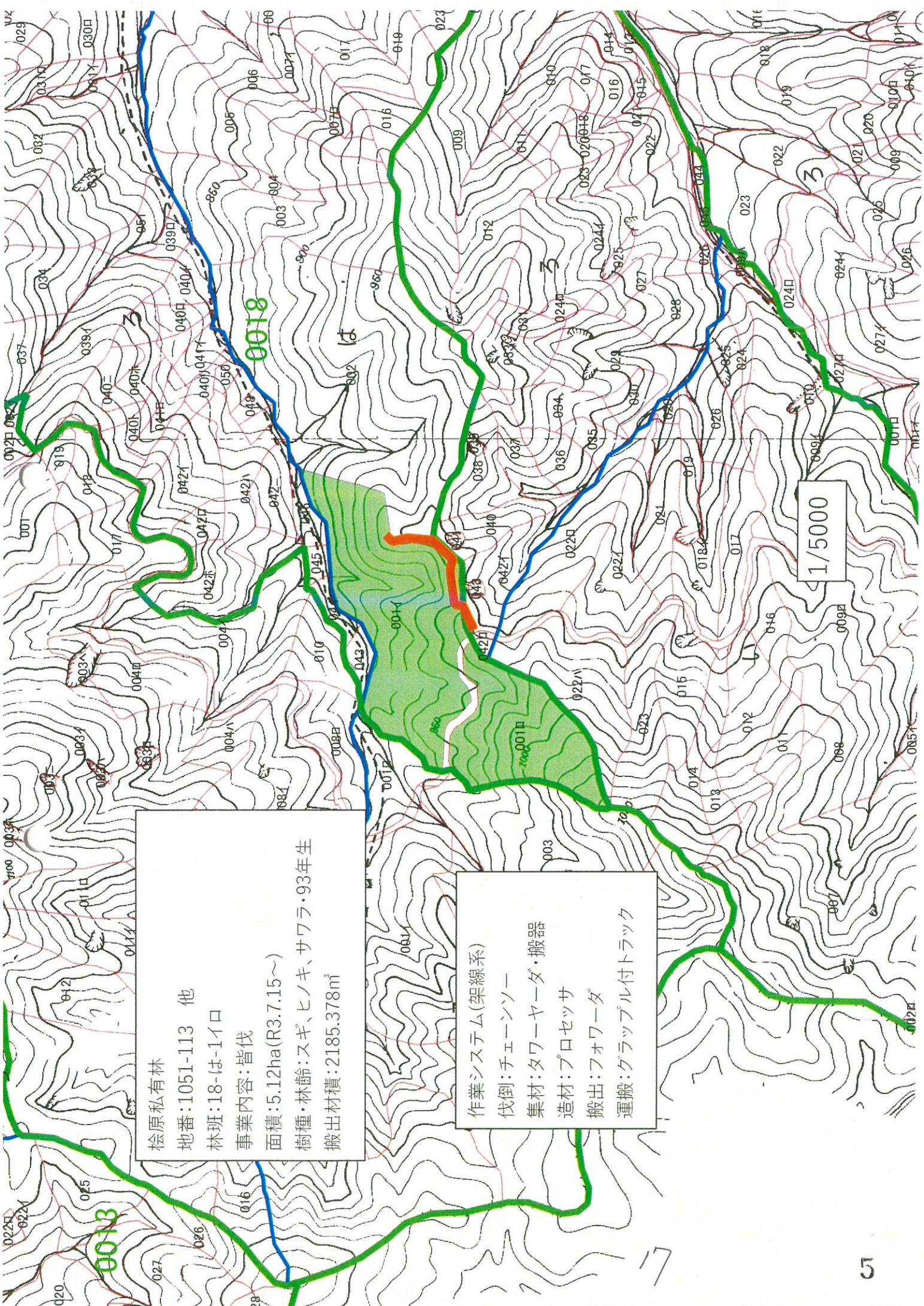


森林認証制度は、適正に管理された認証森林から生産される木材等を生産・流通・加工工程でラベルを付すなどして分別し、表示管理することにより、消費者の選択的な購入を通じて持続的な森林経営を支援する仕組みです。これにより、森林・林業の成長産業化に寄与し、地域振興や資源循環型の社会の実現を目指すことができます。

和紙製法 (日本伝統)



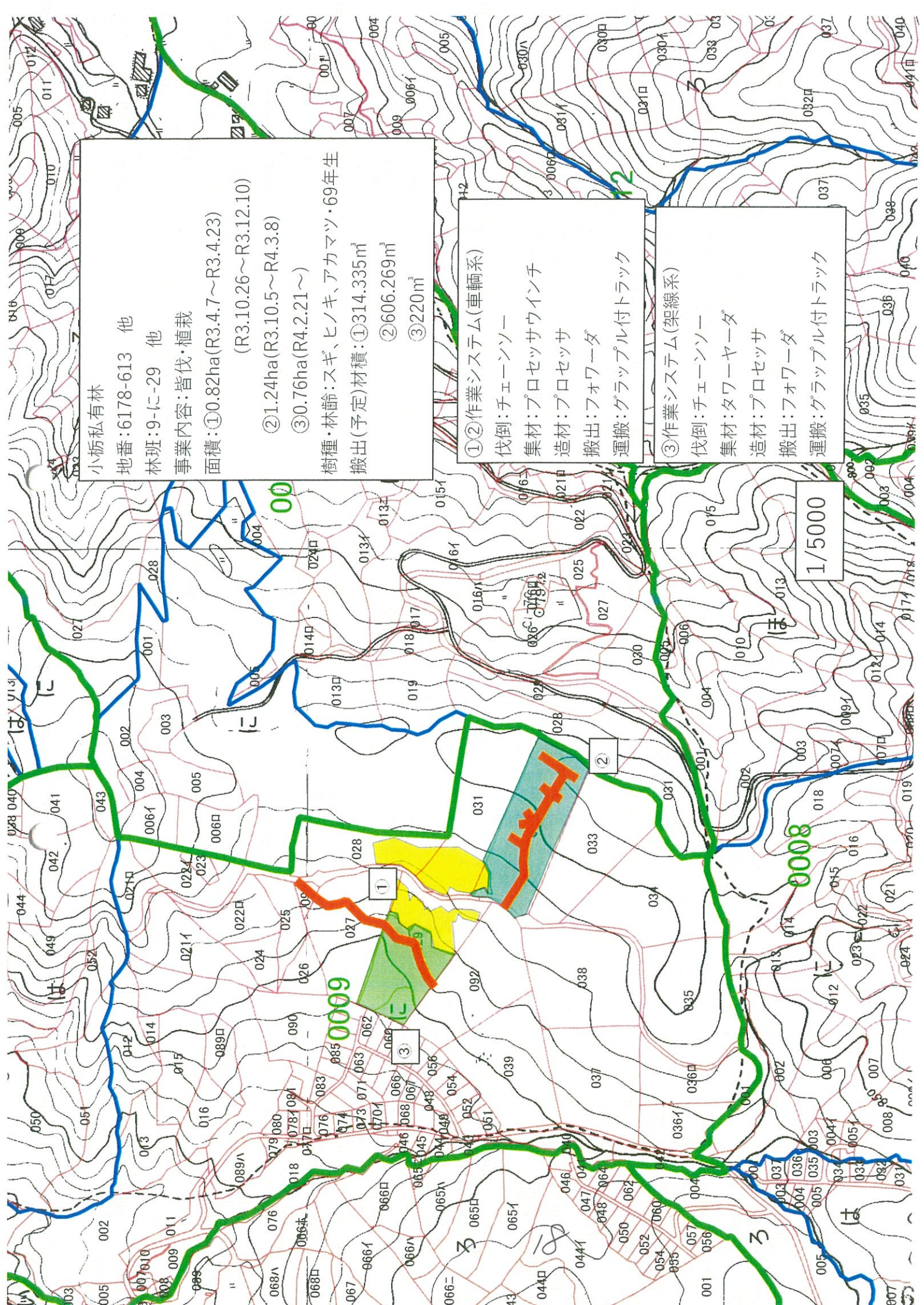
日本を代表する和紙は、西暦610年に製法が伝えられたもので、現代でも紙幣として使用される。木の布は、杉の木から、和紙を精製し布にしたもので、西島手漉和紙の発祥は、西暦1571年（元亀2辛未年）に始まると記録に残されている。西島生まれの望月清兵衛が国主武田信玄の任により現在の静岡県伊豆修善寺で和紙製法の修行を積み、ふると西島にその製法を持ち帰ったことから始まる。



桧原私有林
 地番:1051-113 他
 林班:18-は-1イロ
 事業内容:皆伐
 面積:5.12ha(R3.7.15~)
 樹種・林齢:スギ、ヒノキ、サワラ・93年生
 搬出材積:2185.378m³

作業システム(架線系)
 伐倒:チェーンソー
 集材:タワヤーダ・搬器
 造材:プロセッサ
 搬出:フォワーダ
 運搬:クラップル付トラック

1/5000



小柄私有林
 地番:6178-613 他
 林班:9-に-29 他
 事業内容:皆伐・植栽
 面積:①0.82ha(R3.4.7~R3.4.23)
 (R3.10.26~R3.12.10)
 ②1.24ha(R3.10.5~R4.3.8)
 ③0.76ha(R4.2.21~)
 樹種・林齢:スギ、ヒノキ、アカマツ・69年生
 搬出(予定)材積:①314.335m³
 ②606.269m³
 ③220m³

①②作業システム(車輻系)
 伐倒:チェーンソー
 集材:プロセッサウインチ
 造材:プロセッサ
 搬出:フォワーダ
 運搬:グラブブル付トラック

③作業システム(架線系)
 伐倒:チェーンソー
 集材:タワヤーダ
 造材:プロセッサ
 搬出:フォワーダ
 運搬:グラブブル付トラック

1/5000

「矢作川水源の森」事業

1. 「矢作川水源の森」の概要（契約時）

所在地	長野県下伊那郡 根羽村 3370 番地 1
面積	48.21ha
樹種	ヒノキ 65 年生（昭和 8 年植栽 外 ヒノキ 73%・サワラ 19%・その他 8%）
経営形態	分収共有林 森林の管理費及び立木の販売収益は根羽村・安城市それぞれ 1/2
期間	平成 3 年 12 月 6 日～平成 34 年 3 月 31 日（30 年間契約）30 年間伐採しない 安城市の負担金額 108,665,000 円（契約対象樹木に係わる安城市の取得価格） 36,154,875 円（地代 30 年間分一括払い、 m^3 当 5 円 \times $(428,065 \text{ m}^3 \div 2) \times 30$ 年） 計 144,819,875 円
持分割合	根羽村 1/2 安城市 1/2

2. 「矢作川水源の森」の経歴

この森林は昭和 8 年に植栽された官行造林地で平成 3 年度に伐採予定となったが、矢作川流域にとっては貴重な水資源の役割を果たしており、村では伐採の延期を申請したが、営林署（林野庁）ではそのような制度がなく、保護育成のためには村で立木を買い取る以外に方法がなかった。村単独では財源的に困難なため、以前から交流の深かった安城市に協力を要請した。

その結果、立木取得費等約 1 億 5000 万円を安城市が負担していただけることになり、矢作川上流の水資源の確保と森林保護育成を目的とした「矢作川水源の森」の分収育林として、30 年間根羽村と安城市が共同管理していくことに合意した。

令和元年から契約満了に伴い今後についての話し合いを進める中で、安城市・根羽村ともに主伐は時代に適さないとの判断により、契約満了時の主伐行為は行わないこととなった。

3. 「矢作川水源の森」環境育林協定について

契約期間：令和 4 年 4 月 1 日から（期間の定めなし）※5 年間ごとに協定書の見直しあり

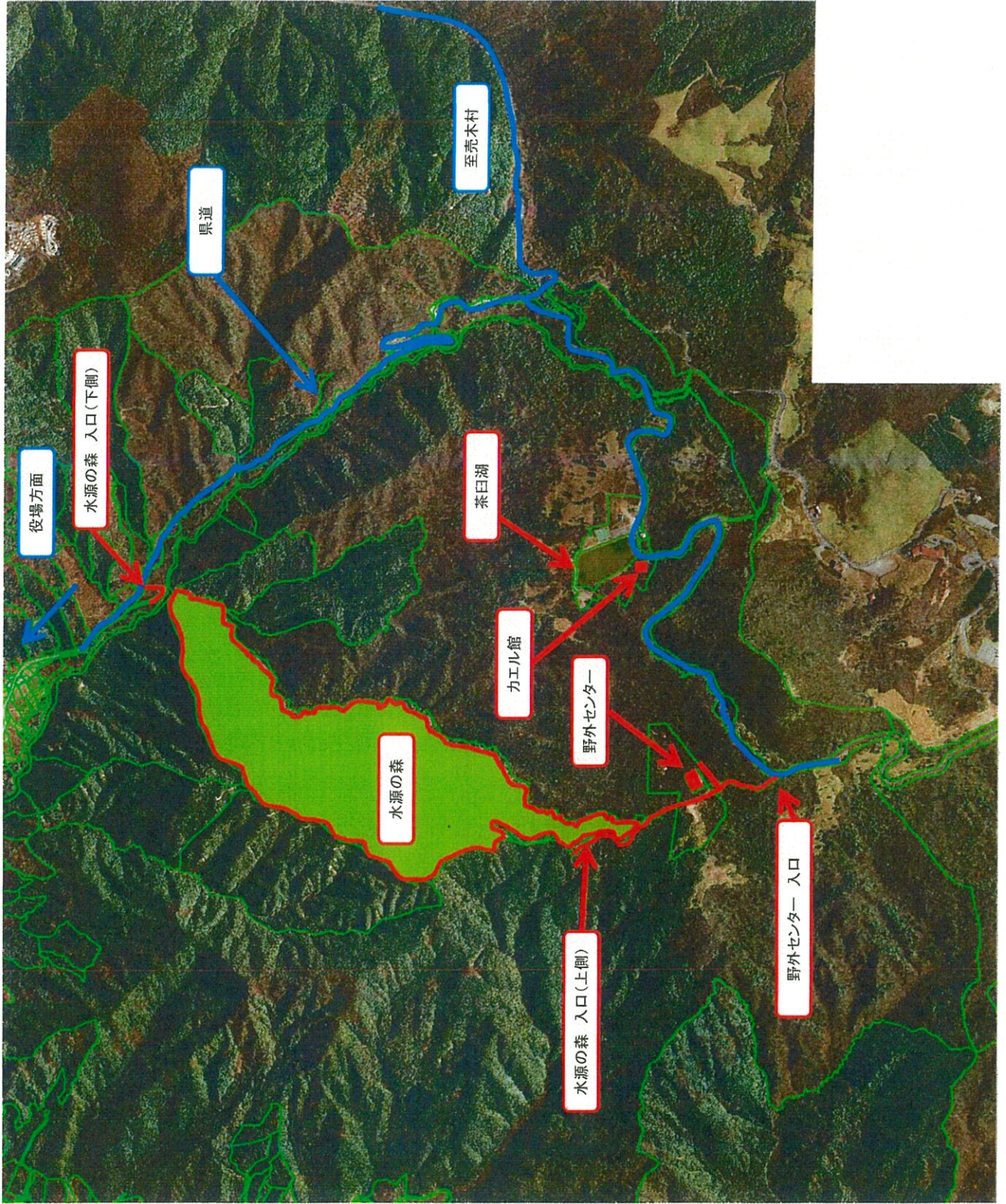
目的：水源涵養・森林資源の保護育成

内容：針広混交林への転換 上下流交流 森林整備

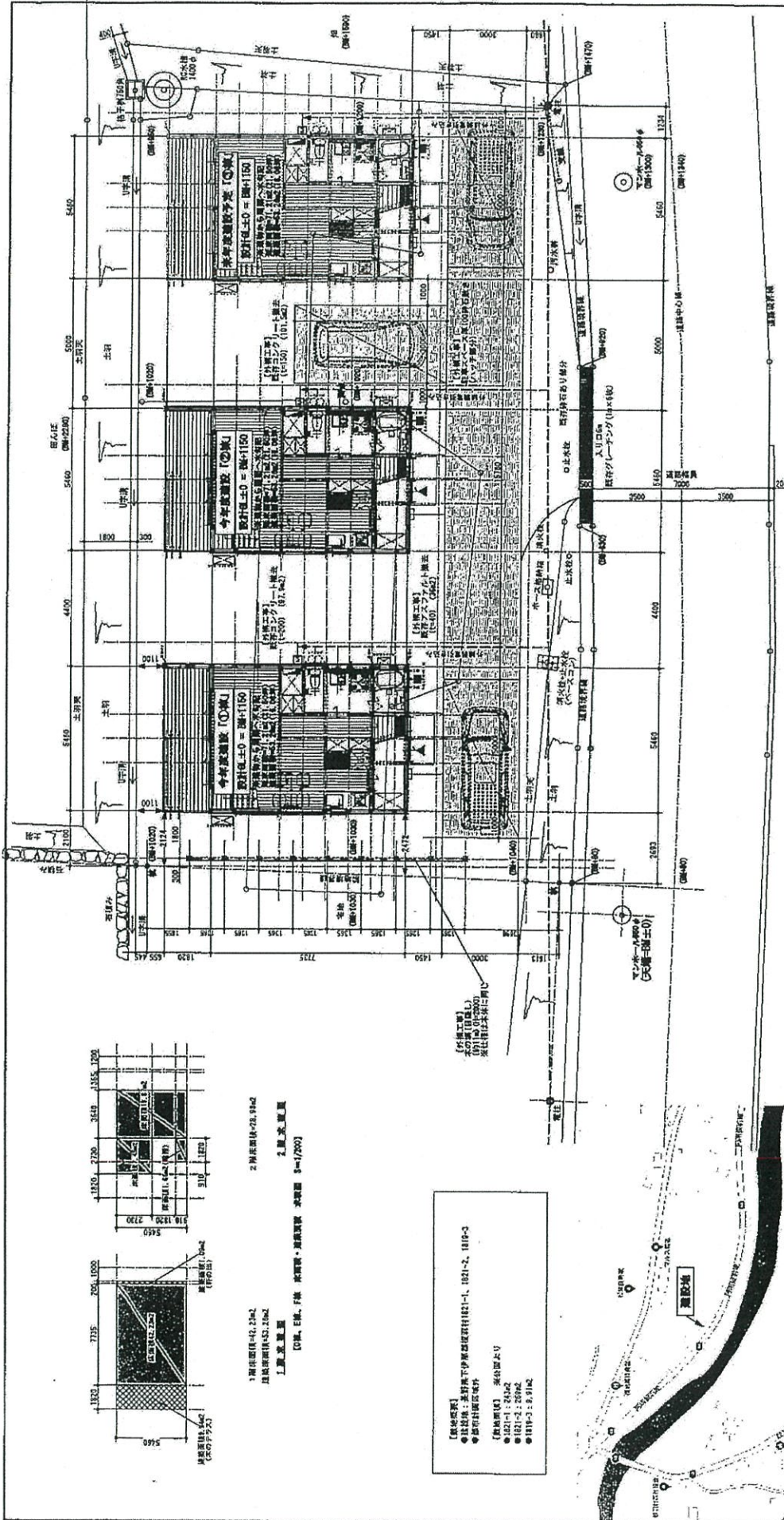
森林学習の場・安城市民の憩いの場

SDGs への貢献・啓発

権利及び費用負担については、「分収育林契約」と同じ条件で引き続き行う。

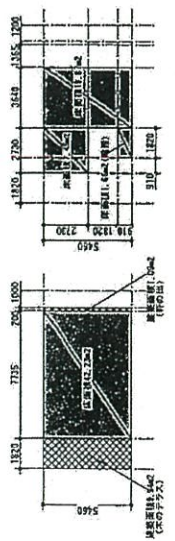


20



【配量図 S=1/100】
 ●配量1000 = 敷地レベルを基準とする。
 ○配量1000 = 建築レベルを基準とする。

上町世帯用住宅 木造2階建
 請負額：34,650,000円 工期：R3.9.28～R4.3.25
 県産材使用量：37.24㎡ (スギ・ヒノキ)

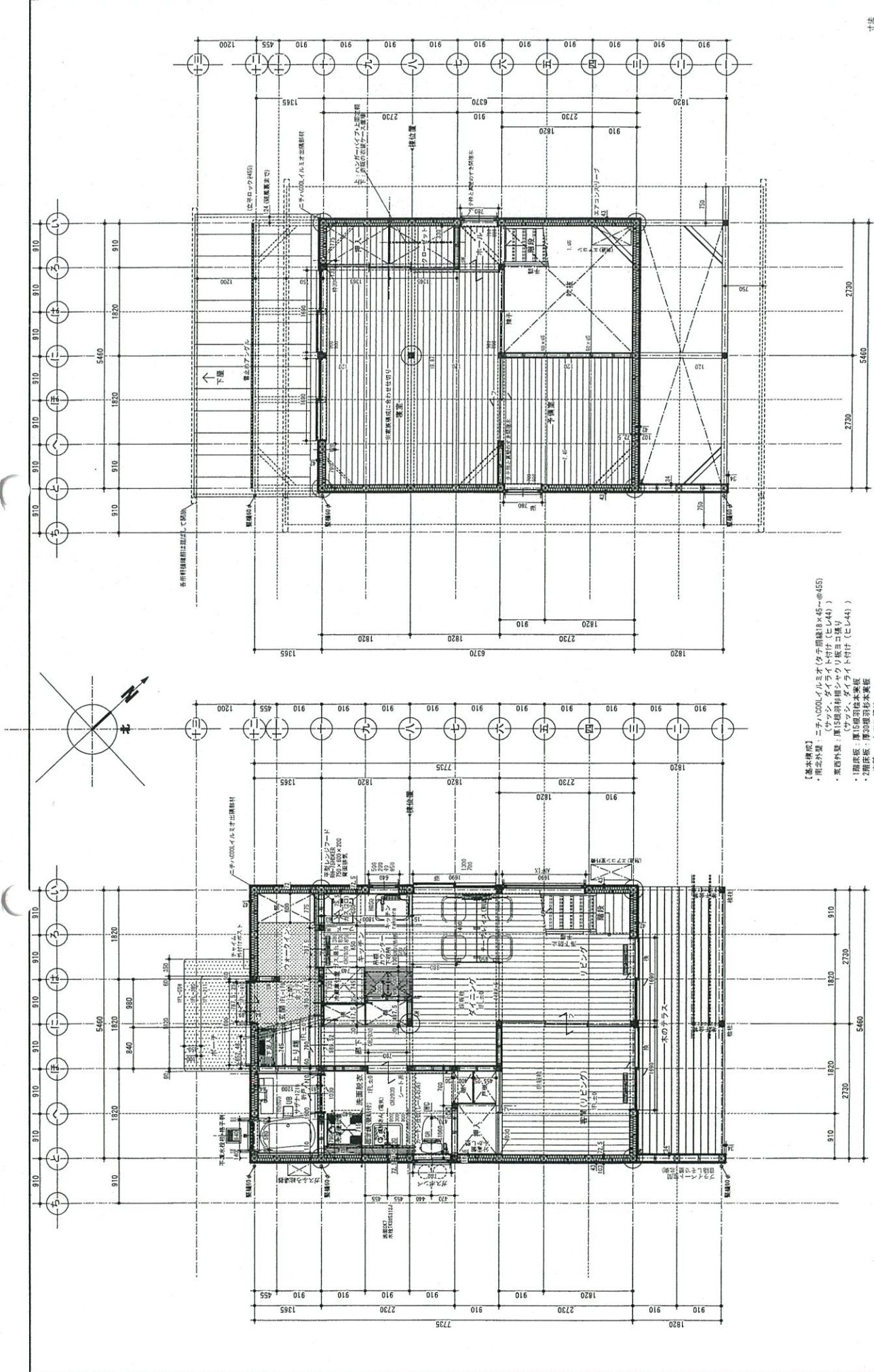


3. 敷地面積(42.26㎡)
 建築面積(42.26㎡)
 工率(100%)
 【0棟、E棟、F棟 建築済・建築済済 本図面 S=1/200】

【所在地】
 ●比叡：長野県下伊那郡忠告村1821-1、1821-2、1819-3
 ●建設地：忠告村建設地
 【実施設計】 株式会社 N
 ●設計：1. 2024年
 ●設計：2. 2024年
 ●設計：3. 2024年

【所在地】
 ●比叡：長野県下伊那郡忠告村1821-1、1821-2、1819-3
 ●建設地：忠告村建設地
 【実施設計】 株式会社 N
 ●設計：1. 2024年
 ●設計：2. 2024年
 ●設計：3. 2024年

〒395-0812 長野県下伊那郡忠告村1824-2 TEL. FAX 0265-24-2131 一級建築士事務所 N 新井 重	完成 設計 担当	MS A2:1/100 B3:1/70%縮尺	工事名称 (雑材) 令和年度 上町世帯用住宅 建築工事 配量図・案内図・求積図・外観図	01 図面NO.
---------------------------------------------------------------------------	----------	---------------------------	------------------------------------------------	-------------



1階平面図 S=1/50
 1階床面積：42.23㎡ (12.78坪)

2階平面図 S=1/50
 2階床面積：28.98㎡ (8.77坪)

【基本情報】
 ・南北外壁：ニチハ000Lイルミオ (女子階床B×45~@45)
 (サッシ、ナイライト付付 (ヒシ44))
 ・東西外壁：厚100珪砂レンコンクリート付付 (ヒシ44)
 ・1階床底：厚150珪砂レンコンクリート付付 (ヒシ44)
 ・2階床底：厚100珪砂レンコンクリート付付 (ヒシ44)
 ・内装：クロス張り

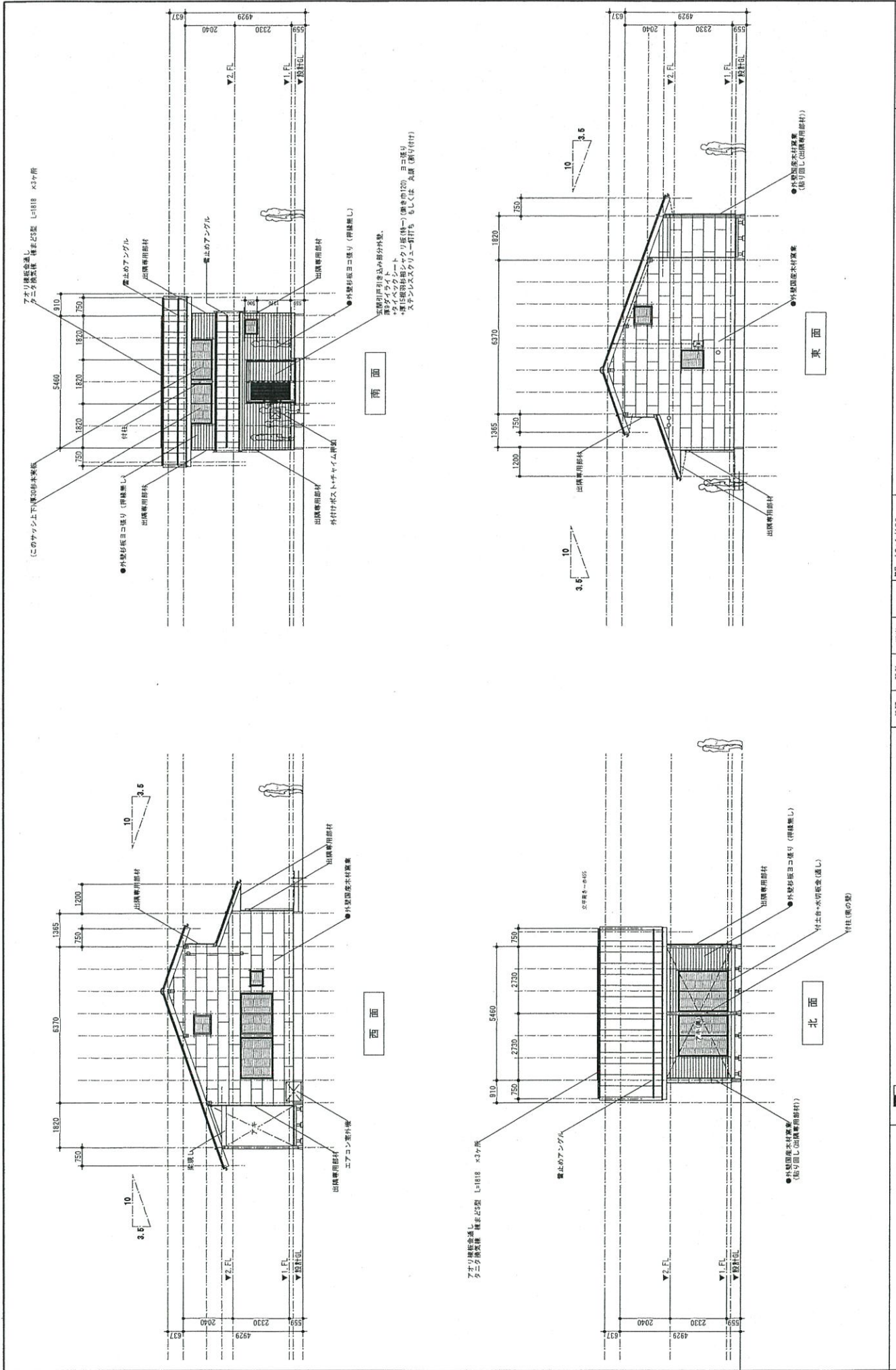
1階床面積：42.23㎡ (12.78坪)
2階床面積：28.98㎡ (8.77坪)

1階平面図 S=1/50
 1階床面積：42.23㎡ (12.78坪)

2階平面図 S=1/50
 2階床面積：28.98㎡ (8.77坪)

【基本情報】
 ・南北外壁：ニチハ000Lイルミオ (女子階床B×45~@45)
 (サッシ、ナイライト付付 (ヒシ44))
 ・東西外壁：厚100珪砂レンコンクリート付付 (ヒシ44)
 ・1階床底：厚150珪砂レンコンクリート付付 (ヒシ44)
 ・2階床底：厚100珪砂レンコンクリート付付 (ヒシ44)
 ・内装：クロス張り

新井 隆 〒395-0812 長野県飯田市南代田1324-2 TEL、FAX 0265-24-2131 一般建築士登録第204020号	新井 隆 〒395-0812 長野県飯田市南代田1324-2 TEL、FAX 0265-24-2131 一般建築士登録第204020号	新井 隆 〒395-0812 長野県飯田市南代田1324-2 TEL、FAX 0265-24-2131 一般建築士登録第204020号	新井 隆 〒395-0812 長野県飯田市南代田1324-2 TEL、FAX 0265-24-2131 一般建築士登録第204020号	新井 隆 〒395-0812 長野県飯田市南代田1324-2 TEL、FAX 0265-24-2131 一般建築士登録第204020号	新井 隆 〒395-0812 長野県飯田市南代田1324-2 TEL、FAX 0265-24-2131 一般建築士登録第204020号
------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------



		新井建築工房+設計+施工+人NEXT <small>一般社団法人新井 長野県知事登録 (株) 195652021</small>		〒395-0812 長野県東田市松代田1324-2 TEL. FAX 0265-24-2131 <small>一般社団法人新井建設2000201</small>		平井 隆 設計 担当		工事名称 (根羽村) 令和03年度 上町世帯用住宅 建設工事		図面NO. 05	
平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当	
平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当	
平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当		平井 隆 設計 担当	

23